

工事名：八尾町平沢地区配水管布設（その1）工事

質問	回答
<p>設計書と現地で相違があった場合、設計変更などでの対応となる場合がありますが、その設計変更の金額が実際の施工金額と乖離している場合が近年多々見受けられます。国土交通省・建設業法令遵守ガイドラインに基づいた発注者の立場を利用した受注者への不当な金額提示を行わず、適切な額での変更はしていただけますでしょうか。</p>	<p>水道事業実務必携等の積算基準書に基づき適切に金額を算定し、設計変更を行っております。</p>
<p>また設計書に記載されている以外の規制、又は作業方法を行うという口約束などは取り交わしておられませんでしょうか。設計書に記載されていない内容に関して、履行においては全て費用が発生しますが、これらにおいても必要費用の適切な額での変更はしていただけますでしょうか。</p>	<p>特記仕様書及び工事条件明示書のとおりです。設計書に記載していない内容が発生した場合は受注者と協議します。</p>
<p>設計断面に砂質土と記載されておりますが、土質は土質調査をしての設計と考えるとよろしいでしょうか。山間部は大型の岩石が出てくることが多く、掘削時に土質にそれらと相違がある場合、掘削時の進捗、掘削範囲・仮舗装範囲の増大、また受け入れ先の受入金額が大きく変動しますが、その場合は、適切な設計変更・増額にて確実に対応していただけますでしょうか。</p>	<p>過去の近隣工事実績より、砂礫質であることを想定しておりますが、設計と現地にて相違が発生した場合は受注者と協議します。</p>
<p>また鋼矢板たて込みの項目がありますが、同じく土質調査により鋼矢板たて込み可能な土質・N値である上での設計と考えるとよろしいでしょうか。</p>	<p>設計段階では、鋼矢板たて込み可能であると判断しておりますが、設計と現地にて相違が発生した場合は受注者と協議します。</p>
<p>農業集落排水がありますが、減圧弁設置所において設置、および減圧弁筐設置の施工・掘削範囲に影響はありませんでしょうか。</p>	<p>農業集落排水については、干渉しないことを確認済みですが、設計と現地にて相違が発生した場合は受注者と協議します。</p>
<p>設計書に水替工が一切計上されておきませんが、これは現地の水位調査により水替不要という結果でしょうか。</p>	<p>地下水位は掘削底面以下であり、水替工は不要であると判断しております。設計と現場にて相違が発生した場合は受注者と協議します。</p>
<p>設計書において公共残土受入箇所が記載されておりますが、記載されている建設発生土受入箇所は隣接工事含む本工事の発生土量すべての受入を間違いなく無条件で可能との返事を受けての選定でしょうか。また相手先より受入不可能・条件付き受入などがあった場合の受入業者の再選定、及びそれにかかる費用は受注者側都合では無いので、適切な設計変更・増設にて確実に対応していただけますでしょうか。</p>	<p>建設発生土の搬出先は、富山県土木工事標準積算基準に基づき現場から一番安価な場所を選定しており、設計段階ではストックヤードに余裕があり受入が可能であると判断しておりますが、処分先の都合により建設発生土の受入が不可能となった場合は受注者と協議します。</p>

<p>材料納期の問い合わせを行ったところ、減圧弁・減圧弁筐の納期が3.5～4ヶ月とのことでした。県道における冬季規制期間に入ってくるものと思われませんが、工程関係の3番項の道路占用協議、および8番項の工程に影響を受ける部分の記載から、冬季掘削期間外での施工の協議をされ、許可が下りるものと考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>減圧弁設置工については、道路管理者より、冬季掘削規制期間中の施工許可済みです。</p>
<p>過去の現場で管布設の高低差が大きい場合、常圧で1.0MPaを超える現場がありました。本現場でもそれと同等かそれ以上の高低差があります。その場合、HPPEの水圧テスト等はどのように行うこととされますか。また管種の選択としてGX-DIPでなくとも大丈夫でしょうか。</p>	<p>本工事施工箇所の標高差は最大60m程度であり、水圧は0.6MPa程度の見通しとなっておりますので、通常と同一の水圧テストを計画しております。また、管種については、HPPEで問題ないと判断しております。 設計と現場にて相違が発生した場合は受注者と協議します。</p>